

2023年7月23日

「主において喜ぶ生活」

フィリポの信徒への手紙 4:1-7

竹島 敏牧師

主において喜ぶ生活、それは、思い煩いのない生活なのではありません。様々な思い煩いが起こってくるなか、その都度、全てを神に打ち明けて、委ねて祈りつくしてゆく生活のことです。まだ何も解決していないにもかかわらず、必ず主が共に働いてくださり、良き方向に導いてくださることを信じて祈りつつ、前もって喜ぶ生活のことなのです。そして「すべての人に知られるようになさい」と言われている「広い心」とは、神の身分でありながらそれに固執せず、僕の身分になり、人間の姿で現れて十字架の死に至るまで従順であった(2:6-7)、ほかならぬキリストが実践した「広い心」なのです。

共に生きること、共に宣教してゆくことにおいて、思い煩いがあり限界があります。だから小さな力が寄せ集められることが必要で、神様が「広い心」をもつ人たちをあちこちで起こしてくださることを祈りつつ、自らの限界を見極めて仕え、祈って委ねることなのだと思います。その時初めて、自らの小ささや状況の厳しさに絶望することなく、希望をもって、喜びをもってそれぞれの課題を負って生きることが可能になるのではないのでしょうか。そしてこれが、「主において喜ぶ」ということなのでありましょう。もちろん、主に打ち明けたとおりに願ったものが与えられるとは限りません。しかし主が一番ふさわしい方向に導いてくださるといふ想いの中で、自らの歩みを進めてゆくなれば、様々な怒りと悲しみとで心騒ぐ日々を乗り越えて、希望をもって生きてゆくことができるのではないのでしょうか。そして、そのように歩む人は次第に主に深く捉えられて、「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神の国という目標を目指してひたすら走る」人生へと導かれるのです。

主は私たちのすぐ近くにおられます。